

コアカリキュラム構成 ～高位平準化・公的資格に向けてのカリキュラム～

動物看護系専門教育機関 動物看護師養成高位平準化対応連絡協議会 コアカリ作成委員会 動物看護師統一認定機構(推奨)

| 分野 | 所属教科(授業科目)例 | 時間数 | 単位 | 含まれるもの(内容)例 | キーワード(履修項目) | | |
|---------------------|-------------------------|---|---------------------|--|--|---|--|
| 専門基礎分野 | 動物の体の構造と機能を理解する | 動物形態機能学 | 150 | 5 | 概論 比較解剖学 血液学 免疫学 形態機能 | 細胞の構造(染色体)、細胞組織、遺伝様式、体液と尿、生体恒常性 皮膚、筋・骨格、脳と神経、感覚器、循環器、呼吸器、消化器、内分泌とホルモン、生殖器、歯 血液成分と働き 免疫機構、免疫細胞、輸血と移植の免疫、動物種による免疫 臓器(卵巣、子宮、精巣含む)の形と機能 | |
| | 疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ | 動物病理学 | 30 | 1 | 病理学概論 概論 | 発病のメカニズム、変性、化生、萎縮、肥大、過形成、浮腫、炎症、腫瘍 バイタルサイン、病的変化 | |
| | | 動物疾病看護学 | 150 | 5 | 内科疾患 外科疾患 皮膚疾患 眼科疾患 歯科疾患 | 主要疾患の機序、症状、検査法、治療法 主要疾患の機序、症状、検査法、治療法 主要疾患の機序、症状、検査法、治療法 主要疾患の機序、症状、検査法、治療法 主要疾患の機序、症状、検査法、治療法 | |
| | | 動物薬理学 | 30 | 1 | 薬理学 薬物学 | 作用機序、薬物耐性、薬物アレルギー、有害作用、中毒、プラセボ効果 主要な薬剤の特性、主な化学式 | |
| | 健康管理と維持に必要な技術と概念を学ぶ | 動物感染症学 | 60 | 2 | 総論 内部寄生虫 外部寄生虫 微生物 | 寄生とは 主な種類(原虫、吸虫、糸虫、線虫)と感染経路 主な種類(節足動物)と感染経路 細菌の構造と分類、細菌の増殖と耐性、ウイルスの構造と分類、真菌の構造と分類 | |
| | | 病原体・衛生管理 | 30 | 1 | 概論 ワクチン | 病原体の種類、感染の成り立ち、治療法 ワクチン、予防 | |
| | 動物医療業界の関連法規を知る | 動物健康管理 ※15hr/単位換算 | 15 | 1 | 飼育管理、日常手入れ | 適正飼育、食べてはいけないもの、事故防止 | |
| | | 動物栄養学 ※15hr/単位換算 | 75 | 5 | 栄養素 特別療法食 ペットフード市場 | 6大栄養素、犬猫の基礎栄養、BCS評価、カロリー計算、適切なフードの知識、 疾病と栄養管理 受容と嗜好性、ペットフードの取り扱い | |
| | ヒトと動物の調和に関わることを学ぶ | 動物獣医師法 狂犬病予防法 動物愛護及び管理に関する法律 鳥獣保護法 薬物関連法規 家畜伝染病予防法 その他動物関連法規 その他法規 | 30 | 1 | 獣医師法 狂犬病予防法 動物愛護及び管理に関する法律 鳥獣保護法 薬物関連法規 家畜伝染病予防法 その他動物関連法規 その他法規 | 薬(向神経薬、麻薬、毒劇物)の保管、薬事法など 補助犬法、動物取扱業者 個人情報保護、労働基準、労働安全衛生、育児介護、健康保健 | |
| | | 公衆衛生学 | 30 | 1 | 概論 人獣共通感染症 滅菌・消毒 動物防疫学 | 公衆衛生と獣医療の関わり、公衆衛生と疾病との関わり、公衆衛生と環境との関わり 主なズーノーシス 院内感染防御、滅菌法、消毒薬の特徴 感染症とその対策 | |
| | | 動物繁殖学 ※15hr/単位換算 | 15 | 1 | 概論 分娩・新生子 遺伝学 | 性周期、繁殖、交配 妊娠、胎子発達、分娩、帝王切開、新生児、産褥期の異常 遺伝性疾患、計画交配 | |
| | | 動物人間関係学 | 30 | 1 | HAB、AAA、AAT、AAE | HAB、AAA、AAT、AAEなどの概論 | |
| | | 動物行動学 | 60 | 2 | 概論 犬・ネコ学 行動の意義と機構 しつけ・トレーニング 問題行動 | 動物の家畜化 犬と猫の発生、生態、種類の特徴 行動発達過程、行動の周期性(内分泌、ホルモン)、生得的行動、習得的行動 学習理論、動機づけ、社会化、排泄、カーミングシグナル、パピークラス 排泄問題、攻撃性、恐怖・不安 | |
| | | 動物福祉論 | 30 | 1 | 獣医療倫理 動物福祉 | 生命倫理、インフォームドコンセント、安楽死 5つの自由 | |
| | | 飼養管理学 (エキゾチックアニマル含む) | 30 | 1 | ウサギ、小鳥、ハムスター、モルモット、フェレットなど 実験動物 産業動物 野生動物 展示動物 | 生態、飼育管理、取り扱い 主な種類、概論、倫理、3R 主な種類、家畜歴史、家畜の主な疾病予防学、家畜飼養学、農場HACCP 概論、野生動物の生態と生息環境、捕獲、絶滅危惧種の保全・保護管理、外来生物 概論、社会的な役割 | |
| | | 動物看護に活かす | 動物看護学 ※15hr/単位換算 | 15 | 1 | 看護学概論 動物の看護 終末期患者動物の看護 | 看護倫理、概念 看護過程、POS グリーフケア、ペットロス、QOL、死後の取り扱い |
| | | | 臨床動物看護学 | 30 | 3 | 概論 内科疾患の看護 外科疾患の看護 皮膚疾患の看護 眼科疾患の看護 歯科疾患の看護 | 経過・症状に応じた看護 主な疾患に応じた看護、疾病予防 主な疾患に応じた看護、疾病予防 主な疾患に応じた看護、疾病予防 主な疾患に応じた看護、疾病予防 主な疾患に応じた看護、疾病予防 |
| | | | | 動物入院管理 | 30 | 1 | ケア、看護計画 看護記録 治療・処置別による看護 |
| 幼齢動物・高齢動物管理 | 30 | | | 1 | 哺育 在宅・訪問管理 | 排泄援助、 加齢による身体的特徴、認知障害、褥瘡予防、徘徊改善、夜鳴き改善 | |
| 基礎で習得した知識の応用 | 動物臨床検査学 | | 30 | 1 | 検体検査 生体検査 | 便、尿、血液、細胞など レントゲン(放射線の基本性質、防護、発生装置の仕組みと管理)、ECG、超音波、内視鏡・MRI・CTの特徴 | |
| | 救急救命対応 ※15hr/単位換算 | | 15 | 1 | エマージェンシーとは 救急救命疾患 | トリアージ、生命徴候、救命法(CPR) 中毒、誤飲誤食、外傷、熱中症、溺水、感電 | |
| | クライアントエデュケーション | | 30 | 1 | 疾病予防、避妊去勢、健康管理、衛生管理指導 | 飼い主指導、啓蒙 | |
| | 院内コミュニケーション ※演習含む | | 75 | 3 | 受付、クライアントコミュニケーション スタッフコミュニケーション | カルテ作成、退院手続、薬の説明、会計業務、問診、電話対応 チーム医療での役割 | |
| 基礎で習得した知識の実践 ※810時間 | 動物飼育実習Ⅰ | | 45 | 1 | コハニオンアニマルの適切な飼育法 ドッグトレーニング | 健康動物の適切な飼育法、ハンドリング ドッグトレーニング法 | |
| | 動物飼育実習Ⅱ | | 90 | 2 | 動物飼育に関する技術の実践と応用 | | |
| | 動物看護実習Ⅰ | 90 | 2 | 診療補助、輸液管理、主な処置法、シリンジの扱い 衛生管理、調剤 | 体重測定、体温測定、保定、バイタルサイン測定、創傷管理、包帯法、電法、吸引 院内清掃、医療廃棄物処理、各種投薬法、薬の計算と調剤 | | |
| | 動物看護実習Ⅱ | 135 | 3 | グルーミング 看護技術の実践と応用 | グルーミング(爪切り、肛門嚢絞り、耳掃除)、被毛の手入れ | | |
| | 動物臨床検査学実習Ⅰ | 90 | 2 | 検体処理 検査機器の取り扱い 血液検査・尿検査・便検査・細胞診・微生物学的検査 レントゲン、超音波、ECGなど | 処理法、保管 顕微鏡、各種検査機器 免疫学的検査、顕微鏡学的検査、標本作製、正常と異常の違い、クロスマッチ、培養 防護、取り扱い、準備 | | |
| | 動物臨床検査学実習Ⅱ | 135 | 3 | 検査技術の実践と応用 | | | |
| | 外科動物看護実習Ⅰ | 45 | 1 | 手術関連業務 術前術後の看護 麻酔・鎮痛 麻酔モニタリング | 手術準備、術着・手袋の着用、糸の種類、器具の種類と目的、手術助手 前処置、術野の準備、術創保護、リハビリテーション、疼痛管理 麻酔薬、鎮痛薬の準備、動物の看護 装置の扱いと装着、評価 | | |
| | 外科動物看護実習Ⅱ | 45 | 1 | 外科に関する技術の実践と応用 | | | |
| | 総合臨床実習 | 135 | 3 | 動物病院実習 | | | |
| コアカリ時数/単位 | | 1,920 | 60 | | | | |
| 各校の特色 | | 480 | | コアカリ関連科目を各校で振り分ける(+10~16単位) | | | |
| 総時数/単位 | | 2,400 | 70 ~ 76 | | | | |

- ・基本的なコアカリ時数は1,920時間(総時間の80%)で設定+各校の特色(コアカリ関連科目)480時間=2,400時間
- ・実習はコアカリ時数1,920時間のうちの42%を占めている
- ・現行は時数で運用しているが単位導入を考慮し、講義は30時間/単位のものと15時間/単位(自宅学習を含む)のもの、実習は45時間/単位で換算した
→文科省基準 :講義・演習15~30時間/単位、実験・実習30~45時間/単位 ※講義・演習は最低15時間は対面授業必須で残りは自己学習で1単位としても可能
- ・公的資格化を考慮し、産業動物、野生動物、展示動物もコアに入れる
- ・公的資格化の基準として採血などがコアに含まれるかも知れないことを考慮し生理学を厚くした(動物看護師の業務範囲に関わるため実習は控える)

- ・「マネジメント(備品管理・顧客管理・業務分担)」や「ビジネススキル(PC演習・情報処理)」はコアには含まないが臨床には必須能力として必要性あり
- ・動物病院実習は一定の履修内容を設ける必要性あり
- ・公的資格化による看護師の業務範囲によって実習として必要な項目が発生する可能性あり